

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2024年8月6日放送分・東八番丁／ハッ塚】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩き達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 東番丁に行く！」旅も、8回目。仙台駅東口を出てまっすぐ行くと、ヨドバシカメラとユアテック本社の上に南北の大通りがあります。これが、今回歩く「東八番丁」です。東八番丁は、二十人町から荒町まで。東七番丁と平行に割り出された通りで、その範囲も東七番丁と重なります。城下町の拡大に伴い、足軽や職人も交ざった侍屋敷街として整備されましたが、江戸時代中期以降飢きんが相次ぐと、住人達が帰農するなどして廃れて行きました。
- 今回は、楽天モバイルパークへ続く宮城野通もブラブラ。歩道沿いに水路があるのですが、東八番丁付近では意外にも西側＝仙台駅方向に流れています。ところが東九番丁も過ぎて東進すると、道はガクンと下がります。この段差の正体は、長町－利府断層の断層崖。落差は最大16mあるという断層の崖です。1万5千年の間に、数回の大地震により動いているそうです。逆断層のためへりの部分が盛り上がり、結果仙台駅の方に少し下がったと考えられます。そういえば、仙台駅周辺は大雨の時、水が溜まりやすいですね。いずれにせよ、水は絶対に正直というわけ。

- 辻標は、新寺1丁目の変則的な交差点にありました。このコーナー48本目。東八番丁と、もう一面には「ハッ塚」と刻まれています。この辺に八つ=つまり沢山の塚(古墳、墓)があったため、こう呼ばれていたと考えられます。木村さんの推測では、豪族や官人(役人)の墓ではないかとの事です。



- 歴史散歩のおしまいに、交差点をさらに南下して「四社宮」という小さなお社を訪ねました。江戸時代初期、柴田郡大河原町からここに配置された鉄砲足軽衆が、大阪の陣に出陣して全員無事に戻った事に感謝し、東八番丁に社を築いたものです。慶長遣欧使節の支倉常長も、長旅の前にここでお参りしたそうですよ。当時世界一周の大航海から無事帰国したのですから、御利益がありそうですね！

〈文・佐々木淳吾〉

